

令和元年度愛教研八幡浜支部の八幡浜市への要望事項に対する回答書

令和元年 12 月 12 日

八幡浜市教育委員会

【八幡浜市の財政状況・当初予算編成方針】

1. 本市の財政状況と査定に当たって

本市の財政状況は、平成 30 年度決算(一般会計)によると、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支で 3 億 2,759 万 6 千円の黒字決算となりました。

財政調整基金の残高は、平成 30 年度末で約 27 億 7 千万円ですが、令和元年度においても、7 億円以上を取り崩す予算となっており、今後も市税、交付税の伸びは期待できず、厳しい財政状況が続きます。

2. 予算編成の基本的な考え方

令和 2 年度は、引き続き、八幡浜港フェリー埠頭再整備事業(耐震フェリー桟橋、旅客ターミナルビル整備等)、防災行政無線デジタル化、上水道老朽管更新、市立病院職員(医師・看護師等)住宅建設などを着実に進めていきます。

このほか、川之石地区における地域交流拠点施設設備事業について本格着手するとともに、今後は、公民館等、老朽化が進んでいる各施設整備事業についても計画的に更新・改修していく必要があります。

また、5 月には 2 回目となる世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会を開催し、「柑橘のまち八幡浜」の魅力を世界中に発信するとともに、様々な関連事業の実施を通じ、さらなる産業振興や交流人口の増加による市の活性化を図っていきます。

これらの事業は、本市にとって極めて重要な事業ではありますが、多額の経費が必要となるものでもあります。こうした状況を踏まえ、令和 2 年度の予算編成は、限られた財源の中で「自主・自律性の高い財政運営」を目指し、全ての事業について前例を踏襲することなくゼロベースで見直すなど一層の事業厳選と経費の抑制を基本とします。

そのため、職員一人ひとりが、市の置かれている厳しい財政状況を正しく認識し、既存事業における問題点や改善点を見出し、職員一丸となって「歳出の抑制」と「効率化」に取り組んでいく必要があります。

【要望事項に対する回答書】

1 学校予算について

(1) 消耗品費の増額

昨年度の回答からも、市当局の財政状況は厳しいものと十分認識している。しかし、家庭へ配付する各種便りを印刷したり、掲示物をカラーで印刷したりすることが多くなったこともあり、用紙やインクの経費が年々増大している。また、例年の猛暑の影響で、プール管理のための薬剤費の増加も著しい。引き続き、消耗品費の増額をお願いしたい。

[回答]

予算編成方針では、前年度予算額以下を基本とすることとされており、厳しい状況であることは理解していただきたいが、印刷物のカラー印刷の増大などによる消耗品費の増額の必要性は十分認識しており、引き続き予算要求していくこととしたい。

また、プール薬剤費については、昨年度に引き続き、多くの学校から増額の要望が寄せられているため、今年度の使用量を確認し予算要求していきたい。

(2) 学校予算の弾力的な運用

予算の有効な執行を図るため、予算の弾力的運用を可能にしてほしい。

[回答]

現在、予算費用の流用は、年度末に燃料費等が予算額を上回った場合のみ認められている。

予算の流用は、特段の必要性が生じた場合、例外的に認められる会計処理と認識しており、何でも認めるわけにはいかないが、認めるに足る理由がある場合には、個別に対応したいので、その都度ご相談いただきたい。

口頭にて要望のあった共同学校事務室単位での予算配分については、昨年度ご要望があり、教育委員会において検討したが、結果的に要望の取り下げとなっている。要望をあげる際には、学校間で十分ご協議のうえ、統一的な意見となった段階での要望提出をお願いしたい。

2 学校の実情に応じた教職員の配置

(1) 学校教育活動指導員の増員

学校教育活動指導員は、少人数指導やT T指導を推進する上でたいへん重要な存在である。さらに、日本語指導等を必要とする児童生徒も増加している。以上のような理由で、学校教育活動指導員の増員をぜひお願いしたい。

[回答]

学校教育活動指導員の配置条件として、市では現在多人数クラスの対応として配置している。今後も30人以上の学級等の比較的人数が多い学級の学習指導を中心に配置を進めていきたい。

日本語指導については、具体的にどのような対応が必要となるか、改めて説明をお願いしたい。

(2) 学校生活支援員の増員及び中学校への配置

個別の支援や配慮を要する児童・生徒が年々増加している現状がある。個に応じたきめ細かい指導・支援をするために指導員の募集・確保を含め増員をお願いしたい。

中学校への配置については、「配置が難しい」という回答が続いているが、中学校に進学後、支援が途切れた影響で、思春期における様々な問題が発生しているという状況もある。中学校への配置もぜひお願いしたい。

[回答]

昨年度に引き続き、令和元年度においても、学校生活支援員は40名の予算を確保しており、随時、生活支援員の募集を行っているものの、現在39名の支援員配置となっている。

個別の支援や配慮が必要な児童生徒が年々増加しているため、生活支援員の人材確保は重要課題となっている。教育委員会として、引き続き定員確保に努めていくが、学校現場でも支援員業務に適した人材を確保する努力をお願いしたい。

また、中学校への配置については、昨年度要望があり、八代中、保内中には配置している。今後も、市内のバランスを考えて、配置を検討したい。

3 学校施設・設備の整備

(1) ICT機器・インターネット環境等の整備

小学校は、プログラミング教育への対応が迫られている。また、小中ともに日常の授業でのコンピュータの活用は必須となっている。しかし、現在の状況を見ると、パソコン室のコンピュータについては、台数が不足していたり、故障したりしている状況である。教室のWi-Fi環境も整っていない。その環境をぜひ整えていただきたい。

[回答]

Wi-Fi環境の整備は、最も重要な課題と考えており、今年度、児童生徒用パソコンの更新にあわせて全校に整備することとしている。

パソコンの設置台数については、更新後も現在の設置台数と同じ台数を設置予定

としているが、故障した際には、直接業者に修理の連絡をしていただくか、市教委にご連絡いただきたい。今回の更新で機器は新規導入となるため、故障の発生は少なくなるものを見込んでいる。

(2) 施設・設備の安全確保及び対策

児童生徒の安全・安心の確保については、学校の最大の責任である。犯罪の抑止のための防犯カメラの設置や危険遊具の撤去など、適切な措置をお願いしたい。また、統合の渦中にある学校でも、児童生徒の安全確保の責任は同じである。同等の環境整備をお願いしたい。

[回答]

遊具点検において多くの遊具が使用禁止の状態になっており、ご迷惑をおかけしている。

今年度、松蔭小(鉄棒撤去)、真穴小(シーソー新設)、川上小(ジャングルジム新設)、双岩小(雲梯新設)、喜須来小(砂場枠、雲梯新設)、宮内小(はん登棒新設)を順次改修する予定となっている。

多くの学校から遊具改修の要望があがっているため、今後も計画的・計測的に遊具の修繕・設置を実施していくこととしている。

学校の防犯対策は、昨今その必要性が高まっていることは理解しているが、防犯カメラの実施は今のところ考えていない。

AEDの複数設置については、先日養護部会から要望が出ており、その必要性は十分認識している。来年度以降、段階的に設置するように、今後予算要求していきたい。

(3) 少人数教室へのエアコン設置

昨年度は、全ての学校の普通教室及び特別教室にエアコンを設置していただき、たいへんありがたかった。しかし、毎日使用する少人数教室にエアコンが設置されなかったことは残念である。少人数教室へのエアコン設置を考えていただきたい。

[回答]

今年度、臨時特例交付金を受けて、市内の全小中学校の普通教室と主要な特別教室にエアコンを設置したが、要望のあった少人数教室は、交付金対象の教室となっていなかったため、設置を見送っている。

少人数教室に限らず、学校から今回のエアコン設置対象から外れた教室に対するエアコンの設置要望があげられているため、今後の設置を検討したい。

4 その他

(1) 市バス・スクールバスの利用回数の増加

児童の教育活動を充実するため、利用回数を増やしてほしい。また、伊方町のように、スクールバスを練習試合等で利用できるようにしてほしい。

[回答]

現在、学校教育課所有のバスは、何度でも借りることができるが、無料の取扱いは年1回としている。なお、財政課所有のバスも年1回無料の取扱いで利用でき、遠足と学校教育活動でそれぞれ1回ずつ利用可能となっている。市外への運行も可能となっているので、有効に活用していただきたい。

スクールバスの練習試合等での利用については、学校数に比べ保有するスクールバスの台数が限られていることから、要望にお応えすることは難しい状況である。今後の検討課題としたい。

(2) 働き方改革への支援

勤務時間を減らすことばかり言われているが、結局仕事を持ち帰ることになる。いろいろな対策をしていただいていると思うが、改善が実感できるような政策を県や国に要望してほしい。

[回答]

例年作品提出をお願いしている人権作文、健康作文等については、学校側の負担にならないように募集内容を緩和している。

時間外の講演や研修の出席については、具体的にどの研修を指しているのか説明をお願いしたい。